

2018年度（平成30年度）

福山大学での学修を振り返るアンケート
実施報告書

福山大学大学教育センター
教育開発部門

目次

【はじめに】	- 1 -
【方法】	- 2 -
【結果】	- 4 -
(1) 福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思いますか：知識・技能面	- 4 -
(2) 福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思いますか：態度・精神面	- 6 -
(3) 福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか？	- 7 -
(4) 福山大学での学び全体を通して、あなたの満足度を%で表現すれば、次のどれに当たりますか？	- 9 -
(5) あなたは、もう一度福山大学で学ぶ機会が得られるとすれば、何を望みますか？ ..	- 9 -
【総括】	- 9 -

【はじめに】

教育とは、学修者の行動に価値ある変化をもたらすプロセスであり、「何を教えたか?」ではなく、「学修者が、何ができるようになったか?」が問われる。通常、教育者は、教育の効果を試験の結果、すなわち学修成果として認識し把握している。

この点については、自己評価委員会が2004年度（平成16年度）に学生による授業評価アンケート実施して以来、本学のすべての教員は、毎年、学生による授業評価を受けている。

2011年度（平成23年度）からは、大学教育センターが担当することになり、学生による授業評価だけでなく、学生自身の学修の点検も加えたアンケート調査を実施することとなった。本学教員は、これらの結果に対するコメントを学生にフィードバックするとともに、個々の授業改善を行っている。

しかしながら、個々の授業においてではなく、卒業時において、「学修者が、何ができるようになったか?」についても、学修成果の把握には重要である。そこで、2015年度（平成27年度）より、卒業時の学修成果を測定する一環として、卒業生を対象とした「学修を振り返るアンケート」を実施している。

平成30年度も、大学教育センター教育開発部門が「学生による授業評価アンケート」を実施した。このアンケート調査結果が、教員と学生がそれぞれの目標とする教育と学修の成果向上の機会となることを願っている。

平成31年3月31日

大学教育センター長：大塚 豊

大学教育センター教育開発部門長：佐藤 英治

大学教育センター：日暮 美紀（データ集計・解析）

【方法】

平成 30 年度の「福山大学での学修を振り返るアンケート調査」（以下、「卒業生アンケート」）を学内専用ポータルサイト「セレッソ」を利用して、平成 31 年 1 月 7 日～3 月 20 日の期間で実施した。

① 調査項目

以下の (1)～(5) の設問（計22項目）についてアンケート調査を行った。

(1) 福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思
いますか：知識・技能面

下記の5項目について、入学前と比較した自己の変化について調査した。

1. 一般的な教養
2. 日本語の運用能力（表現と理解）
3. 外国語の運用能力（表現と理解）
4. 専門的知識・技能
5. コンピュータを用いた情報処理能力

(評価段階)

5：かなり向上した 4：少し向上した 3：変わらない
2：少し低下した 1：かなり低下した 0：わからない

(2) 福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思
いますか：態度・精神面

下記の9項目について、入学前と比較した自己の変化について調査した。

1. 協調性
2. 創造性
3. 意欲（やる気）
4. リーダーシップ
5. 他者を理解する力
6. チャレンジ精神
7. 知的面での自信
8. 社交面（人間関係）での自信
9. 自己理解

(評価段階)

5 : かなり向上した 4 : 少し向上した 3 : 変わらない
2 : 少し低下した 1 : かなり低下した 0 : わからない

(3) 福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか？

下記の7項目について調査した。

1. 共通教育の授業
2. 外国語の授業
3. 専門分野の授業
4. キャリアに対する授業内容の有効性
5. 教職員による学生支援体制
6. 大学の中での学生同士の一体感

(評価段階)

5 : とても満足している 4 : 満足している 3 : 普通
2 : 不満である 1 : とても不満である 0 : わからない

(4) 福山大学での学び全体を通して、あなたの満足度を%で表現すれば、次のどれに当たりますか？

(評価段階)

5 : 100% 4 : 80% 3 : 60%
2 : 40% 1 : 20% 0 : 0%

(5) あなたは、もう一度福山大学で学ぶ機会が得られるとすれば、何を望みますか？

自由記載

②集計方法

設問（1）～（3）については、各質問項目の回答割合を棒グラフで示した。また、集計後、各回答数に係数（強く肯定する回答には5、強く否定する回答には1）を乗じ全回答数で除することで、平均点を算出し、レーダーチャートで表した。強く否定する回答にも係数1を与えていたため、最高点は5.0、最低点は1.0、標準点は3.0となる。なお、「0：わからない」の選択肢については、その回答を平均点の算出には用いなかった。

設問（4）については、回答割合を円グラフで示した。設問（5）については、代表的なコメントを記載した。

【結果】

回答率は65.1%（対象者751名、回答数489名）であった。設問（1）～（5）に関わる結果を以下に示す。

（1）福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思いま すか：知識・技能面

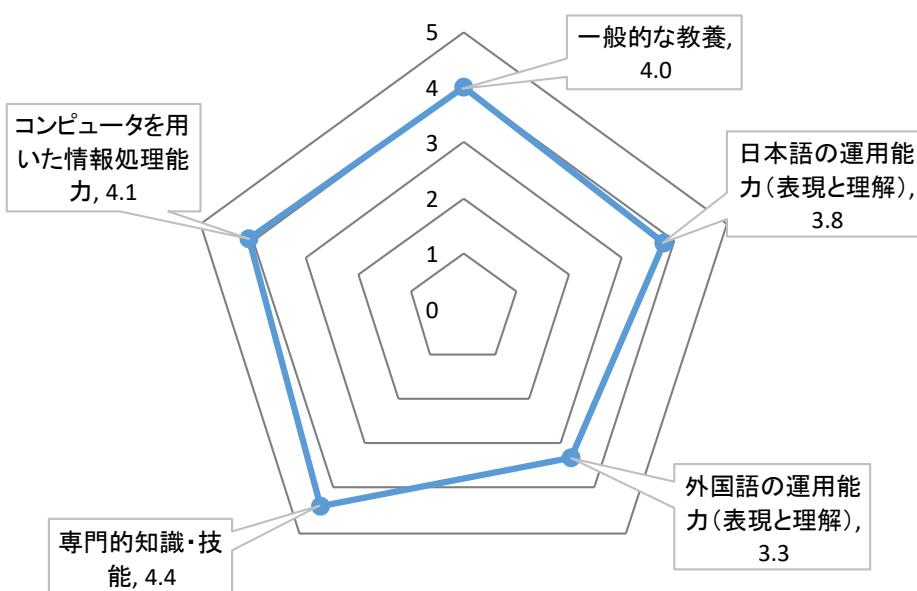
各項目の平均点は外国語の運用能力（表現と理解）を除いておよそ4点前後であり、良好な結果であった。

具体的な回答割合を見てみると、「専門的知識・技能」で49.5%（H29年度は51.8%）の学生が「かなり向上した」と回答しており最も高い割合であった。続いて、「コンピュータを用いた情報処理能力」28.8%（H29年度は29.3%）、「一般的な教養」23.7%（H29年度は26.2%）、「日本語の運用能力（表現と理解）」19.1%（H29年度は19.2%）であった。一方、「外国語の運用能力（表現と理解）」で「かなり向上した」と回答したのは、7.8%（H29年度は7.0%）で最も低かった。

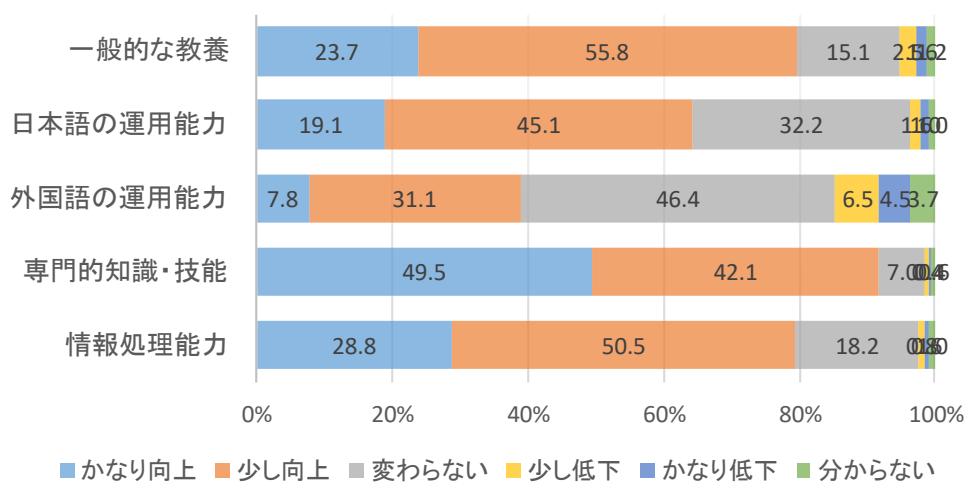
学修による自己の変化に関する解析（知識・技能面）については、平成29年度とほぼ同じ結果であった。全体的にみると、専門的な知識や技能、情報処理能力、一般教養については、学修効果を実感している学生が相対的に多いことが示された。一方、外国語については学修効果を十分に感じていない学生が多いことが示された。ナンバリングが導入されるなど、外国語教育の改革が進行している。新しい外国語教育を受けた学生では、この項目の評価が改善されていることを期待したい。

(1) 福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思いますか(平均点):

A. 知識・技能面



A. 知識・技能面

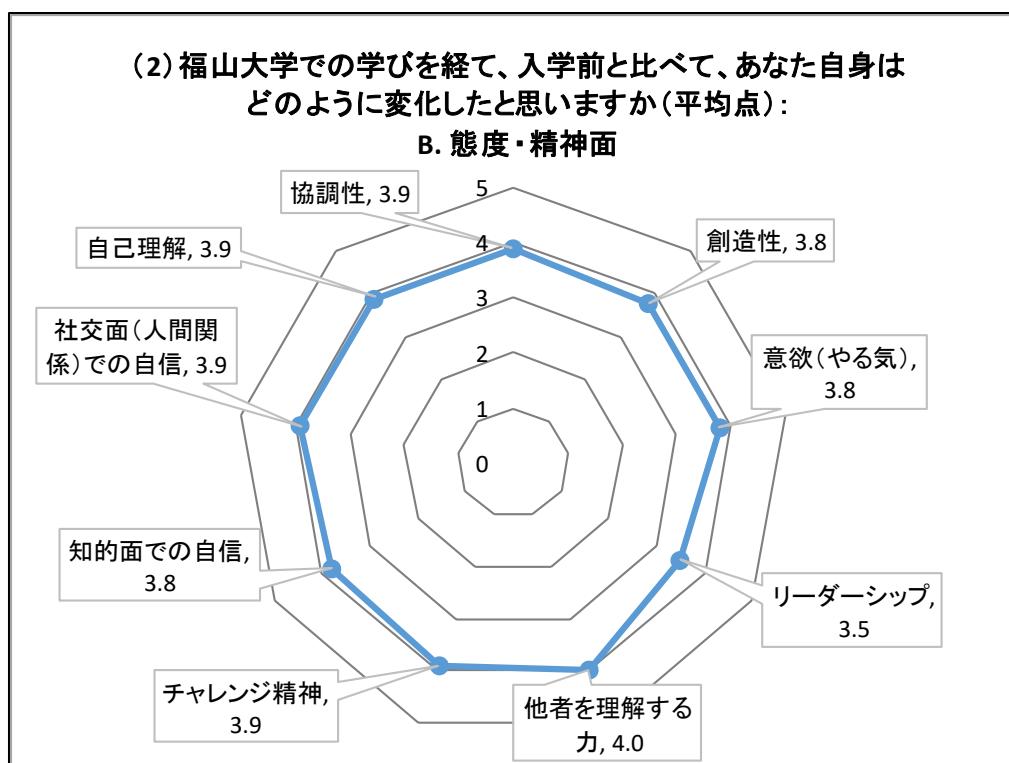


(2) 福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思いますか：態度・精神面

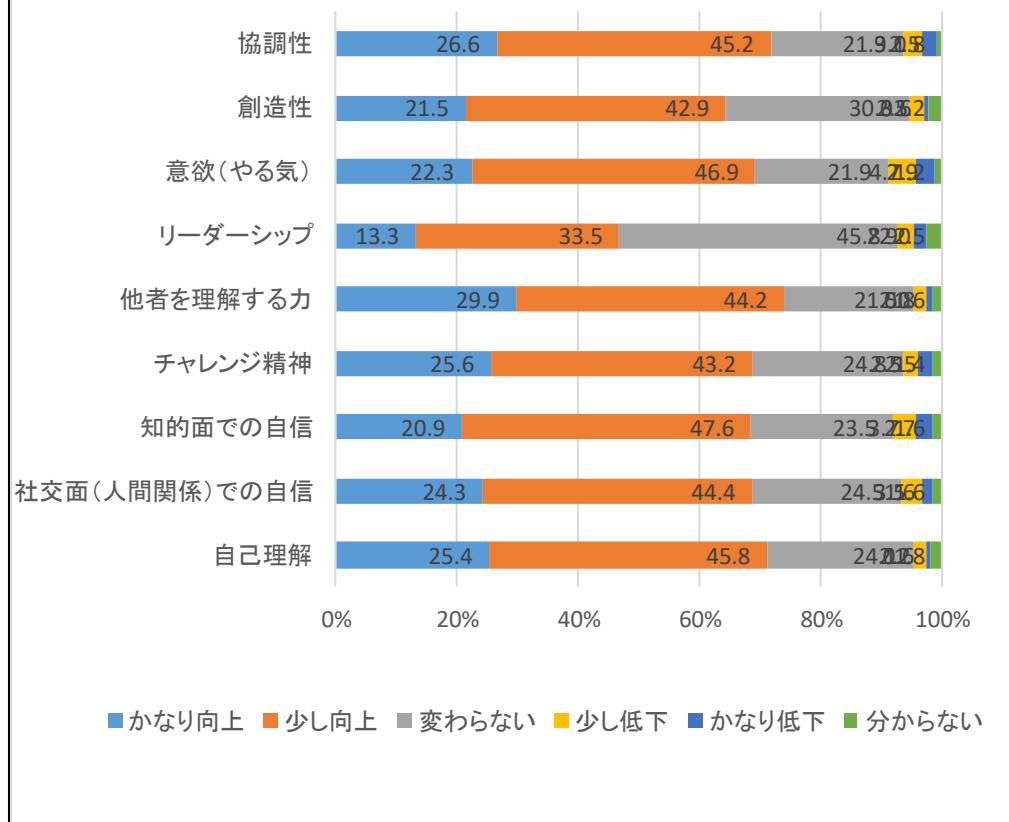
各項目の平均点はリーダーシップを除いておよそ4点前後であり、良好な結果であった。

具体的な回答割合を見てみると、「他者を理解する力」で29.9%（H29年度は27.5%）の学生が「かなり向上した」と回答しており最も高い割合であった。続いて、「協調性」26.6%（H29年度は25.9%）、「チャレンジ精神」25.6%（H29年度は24.1%）であった。一方、「リーダーシップ」で「かなり向上した」と回答したのは、13.3%（H29年度は14.8%）で最も低かった。

「リーダーシップ」以外の8項目については、「かなり向上した」と「少し向上した」を合わせた回答率が60%を超えており、自己に対して肯定的な評価を行っていた。学修による自己の変化に関する解析（態度・精神面）の結果も平成29年度と同じ傾向を示しており、これが本学卒業生の特性と言えるかもしれない。



B.態度・精神面



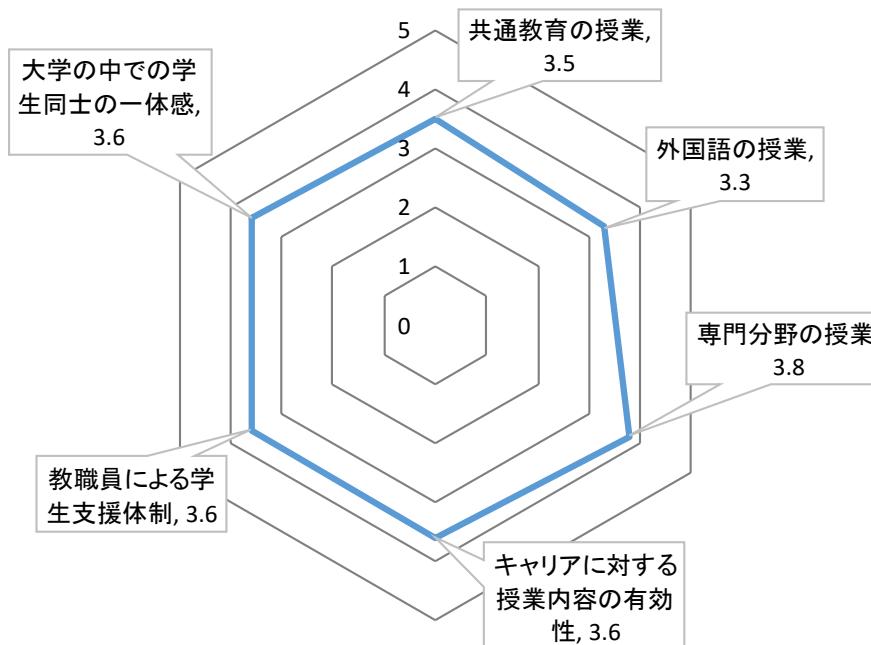
(3) 福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか？

各項目の平均点は専門分野の授業を除いておよそ3.5点前後であった。

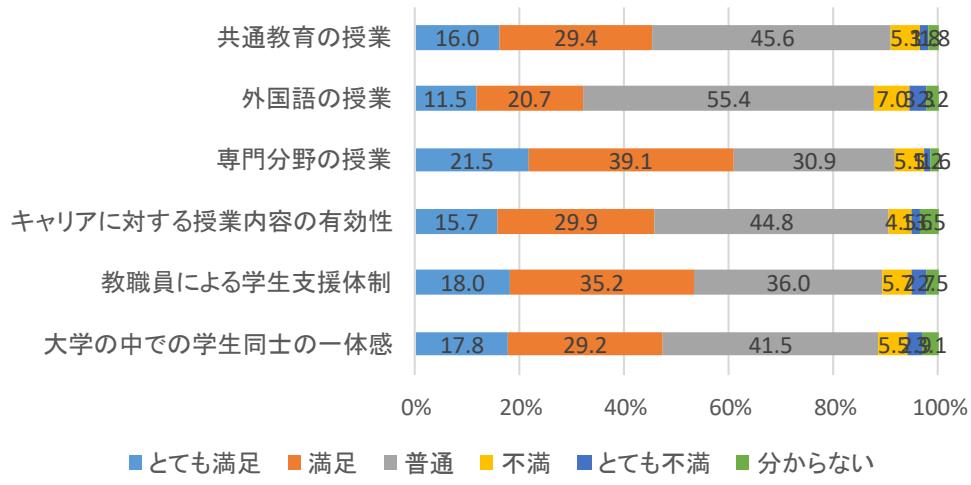
具体的な回答割合を見てみると、「専門分野の授業」で60.6%（H29年度は65.0%）の学生が「とても満足している」あるいは「満足している」と回答しており、最も評価が高い項目であった。続いて、「教職員による学生支援体制」53.2%（H29年度は53.4%）、「大学の中での学生同士の一体感」47.0%（H29年度は43.0%）であった。福山大学での学生生活については、全般として肯定的に捉えている学生が多いことが示された。一方、「外国語の授業」32.2%（H29年度は27.2%）については、授業に関する満足度は低いことが示された。

学修による自己の変化に関する解析：知識・技能面における質問において、外国語の学修効果を十分に感じていない学生が多いことから、授業満足度が低いことと、学修効果を感じていないことについては相関していると推測される。この点については上述したとおり、外国語教育改革の成果を待ちたい。

(3) 福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか(平均点)

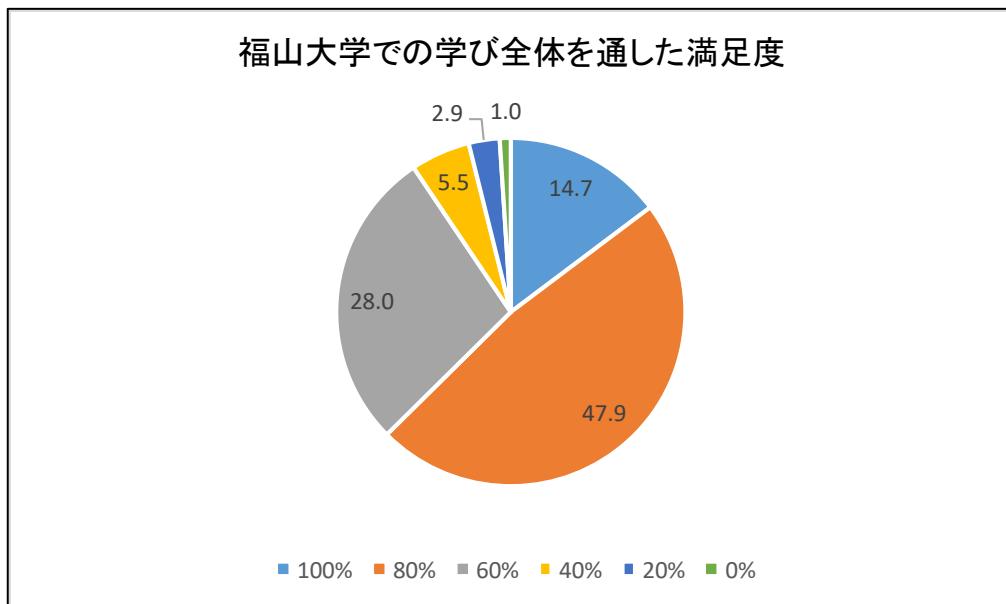


福山大学での学生生活への満足度



(4) 福山大学での学び全体を通して、あなたの満足度を%で表現すれば、次のどれに当たりますか？

「100%」と「80%」を併せて62.6%（H29年度は57.5%）であった。また、満足度60%以上と回答した学生は90.6%であった。この結果は、卒業生は福山大学での学びに比較的高い満足度を有していると考えられる。この結果についても、平成29年度とほぼ同じである。



(5) あなたは、もう一度福山大学で学ぶ機会が得られるとすれば、何を望みますか？

自由記載

200 以上の記載が寄せられた。「語学のさらなる学び」、「専門性の向上」、「他分野へのチャレンジ」など学修意欲にあふれた記載が多く見られた。また、大学に対する要望として「コンビニやアメニティーの充実」、「食堂の値段」、「授業の改善」などの記載があった。自由記載の内容は、学生の率直な意見・感想であり、真摯に受け止めて大学の改革、改善につなげていく必要がある。

【総括】

平成30年度卒業の学生については、福山大学での学びにより自己の能力が向上したと判断しており、福山大学での学修についても概ね高い満足度を示していた。この結果は、平成29年度の結果と同様であった。

大学に対する要望として「授業の改善」の記載が見られた。内容は、授業の選択枠の拡大、

授業の形態、教員への要望等、多岐にわたっていた。今後、授業評価アンケートを通して、授業の改善をさらに推進し、学生満足度と学修成果の向上を目指していくことが大切である。また、「コンビニやアメニティーの充実」、「食堂の値段」など学生の厚生施設の充実を図っていくことも学生満足度の向上に重要であると思われる。

解析結果でも記載したが、外国語教育については満足度、自己変化の評価とも低い値を示した。この点については、平成28年度から導入された外国語教育改革の成果を期待したい。